

令和3年度氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 令和3年10月25日(月)
- 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
- 3 会議時間 午前10時～午前11時50分
- 4 出席委員 伊藤宣良、大島充、高木陽子、七分由紀雄(高嶋達 代理)、寺下利宏、日詰聰、西森正憲、澤武功三朗(松原勝久 代理)、加野陽子、田中英雄、西川扇博、吉田博昭 計12名
- 5 欠席委員 坂下明生、森本太郎、大石宏生、金嶋修、西寛志、向井久尚
- 6 市出席者 林正之(市長)、篠田伸二(副市長)、鎌仲徹也(教育長)、藤澤一興(政策統括監)、東軒宏彰(企画政策部長)、森田博之(総務部長)、森川浩延(産業振興部長)、釣賀勝行(建設部長)、森芳克(市民部長 代理)、高田かつえ(会計管理者)、石田貢一(防災・危機管理監)、泉澤千秋(教育次長)、高野弘文(地方創生推進課長)、出戸勝教(財務課長)、中尾美栄子(総務課長)ほか

7 案 件

(1) 配布資料の説明

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 資料1 | 「氷見市行政改革プラン(平成30年度～令和3年度)」の総括について |
| 資料2-1 | 実施計画取組実績の総括 |
| 資料2-2 | 実施計画取組実績一覧 |
| 資料3 | 中長期財政見通し(令和3年度～令和12年度) |
| 資料4 | 新たな行政改革プラン基本方針 |

(2) 質疑応答、意見交換

- 8 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

- 中尾総務課長 令和3年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。
- 委員の皆様には、ご多忙のところ御出席を賜り、誠にありがとうございます。
- 初めに、市長より挨拶を申し上げます。
- 林市長 皆さん、おはようございます。日々、朝晩寒くなりまして、秋が深まる今日この頃ですが、本日は令和3年度、氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたしましたところ、皆様方には何かとお忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
- また当懇話会の委員の就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けをいただきまして本当にありがとうございます。また皆様方には、それぞれの分野で何かと日頃より市政の推進にご理解とご協力を賜っておりますことにつきましても、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。
- さて、現行の氷見市行政改革プランでございますが、平成30年度から令和3年度までの4年間を計画期間としております。今年度は計画期間の最終年度にあたるわけでございます。
- 本市におきましては、今後も人口減少することが見込まれており、また、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気の低迷もありまして、市税収入等の減少が見込まれております。
- また、少子高齢化への対応などによる歳出の増加が懸念され、歳入や人口規模に見合った財政運営を今後とも推進していく必要があるかと考えております。
- 本日は各分野を代表して、ご参加をいただいております委員の皆様には、現在のプランの検証及び新たなプランの方向性等について、ご説明をさせていただきますとともに、現時点で、今後の10年間の中期の財政見通しなどもお示しをいたしまして、今後の取り組みについてのご意見、ご助言等をお願いしたいと考えております。
- 人口が減少いたしましても、市民サービスの質を維持いたしまして、誰1人取り残すことなく、幸せに暮らせるまちづくりの実現に向

け、頂戴したご意見等を、今後策定いたします新たなプランに反映させることによりまして、本市の行政改革の一層の推進を図り、持続可能な自治体経営の確立に努めてまいりますので、どうか委員の皆様にはご忌憚のないご意見を賜りますよう、お願いを申し上げます。

結びに、本日もご出席の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は皆様どうかよろしくお願い致します。

中尾総務課長 では、協議事項に入ります前に、委員の皆様のご紹介を事務局の方でさせていただきます。

氷見市農業協同組合代表理事組合長の伊藤様です。

氷見市自治振興委員連合会会長の大嶋様です。

氷見市連合婦人会会長の高木様です。

氷見市社会福祉協議会会長、高嶋様の代理、七分様です。

氷見市商工会議所会頭の寺下様です。

氷見市老人クラブ連合会会長の日詰様です。

氷見市小中学校PTA連合会会長の西森様です。

氷見市観光協会代表理事会長、松原様の代理、澤武様です。

氷見市情報公開・個人情報保護審査会委員、氷見市行政不服審査会委員の加野様です。

氷見市特別職報酬等審議会委員、税理士の田中様です。

氷見市有線テレビジョン放送番組審議会委員の西川様です。

氷見市コンプライアンス委員の吉田様です。

なお、坂下委員、森本委員、大石委員、金嶋委員、西委員、向井委員につきましては、本日欠席のご連絡をいただいております。

次に、会長と副会長の指名ですが、氷見市行政改革推進市民懇話会設置要綱に基づき、会長を氷見市自治振興委員連合会会長の大嶋様に、副会長を氷見市連合婦人会会長の高木様に指名させていただきます。よろしく願いいたします。

引き続き、事務局より氷見市行政改革アドバイザーを紹介させていただきます。

令和4年度から計画期間を開始する新たな行政改革プランの策定にあたり、地方自治に関する専門的な見地から助言をいただくため、名城大学都市情報学部教授の昇秀樹（のぼるひでき）先生にご就任いただいております。

詳細はお手元にあります、氷見市行政改革アドバイザーの紹介がございますので、ご一読いただければと思います。

なお、アドバイザーの任期は令和3年5月10日から令和4年3月31日までとしており、第2回の懇話会には出席いただく予定としております。

それでは大嶋様、高木様には、会長席、副会長席にお着きいただき、会長にはこれより議事進行をお願いしたいと思います。

では、会長、よろしくお願いいたします。

大嶋会長

みなさんおはようございます。今ほどご指名に与りました大嶋充と申します。たいへん不慣れな職務でございますが、何卒ご協力、ご支援をいただきまして、責務を果たしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、早速、協議案件に入りたいと思っております。本日の議事録につきましては、これまでの会議と同様、発言の要点を委員名を伏せて公表したいと存じます。何卒、ご了承をお願いいたします。議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと存じます。それでは、議事資料を一括して事務局から説明をお願いいたします。

中尾総務課長

【資料1】「氷見市行政改革プラン（平成30年度～令和3年度）」の総括についての説明

砂山総務課主査

【資料2-1】「実施計画取組実績の総括」、【資料2-2】「氷見市行政改革プラン取組実績一覧表」の説明。

出戸財務課長

【資料3】「氷見市中長期財政見通し」の説明。

中尾総務課長 【資料4】「新たな氷見市行政改革プラン」基本方針の説明。

大嶋会長 協議案件の資料1、資料2-1、資料2-2、資料3、資料4につきまして、お手元の資料をもとに説明をいただいたわけではありますが、これまでの説明に対するご質問、あるいはご提案等がございましたらお伺いしたいと思います。

委員 時間外勤務につきまして、やむを得ない時間外勤務も当然あると思いますし、なかなか大変だろうと思います。ひとつのアイデアとして、職員の趣味の時間を時間外に充てるくらいの感覚が必要ではないかと思います。我々、民間企業ですと、ゆとりがあることによって、事業の効率、時間内の効率が上がってきますので、そういったことも検討されてはいかかかと思います。公務員ですから、中々難しいとは思いますが、視野に入れていただければと思います。

 全体的に、市民サービスや財政のバランスを保ちながら、行財政を変えていくのは非常に大変だろうと思いますし、この資料を見ましても、非常に苦心されているなという点がいくつもありまして、大変であったろうと思います。これは一般会計ベースの考え方なので、それ以上のことは言っても仕様がなと思いますけれども、民間でいくと、全体を、いわゆる貸借対照表のような見方をします。今現在はどうか、長期的にはどう見るかという考え方です。

 氷見市は本当にこの先大丈夫なのかということになると、貸借対照表のようなものがあればわかりやすいと思います。

 全体的に見ても、税収を含め、稼げる市を目指していかないと、この先の人口減を踏まえても、氷見市の産業構造を考えていかないとならない。それは行政が引っ張っていかねばいけないと感じております。

 総合計画の部会でも質問させていただいたのですが、氷見市の平均所得は、富山県は全国的に高いんですが、氷見市は低く、県下でも下の方だと思っています。

働きたい、住みたいということに繋がってくるのですが、所得を上げていくということについて、どうすればよいかということ、それは産業構造にも少し影響してくると思っています。地域内の主要産業は、全体のお金の量が少ないと、どうしても落ちてしまいます。地域外の産業をいかに入れ込むかということ、行政としてはもう少し後押ししていいと思います。

そのためには、製造業や農業もそうですが、観光も氷見市にとっては重要な産業になると思うので、もう少しポイントを絞って、リーディング産業に力を入れてよいのではないかと思います。

リーサスによると、コロナ前の3年間で約80億円の収入が減っています。そういうことを考慮しますと、やはりもう少し後押しが必要ではないかと思います。

大嶋会長 貴重な意見をありがとうございます。これに対する回答をお願いします。

出戸財務課長 今ほどの質問の中で、バランスシートのお話がありました。私共といたしましては、国の基準に基づきまして貸借対照表の策定作業を進めております。令和2年度までの決算につきまして、今年度中に策定いたしまして、公表する予定としております。

大嶋会長 ありがとうございます。

委員 現在、地域の方で子育てサークルのお世話をさせていただいております。資料をご説明いただきまして、子育て世代にも対応するように、いろいろ考えてくださっているんだなと思っています。

例えば見晴らしの丘公園ができたことにより、お母さんたちはすごく喜んでおります。今まで氷見市は遊ばせる場所がなくて、休みになったら高岡まで出かけたりしていましたが、今はすごく利用しやすくなりました。ただ、遊具がもっと充実したらよいと思います。小さい子が遊べるような遊具があったらいいな、という声をききます。

この人口減少の表を見ながら、若い世代が老人世代を支える時代がくると大変だなと思います。もちろん、老人への対応も必要ですが、子育て世代へのサービスについても、拡充策が考えられており、安心いたしました。

大嶋会長 ありがとうございました。総合計画と連動し、意見等を吸収していければよいと思います。

委員 先ほどから、多くの詳細な資料を説明いただきまして、全体的にご苦労されて、検討を重ねておられる感じがします。

 基本的に現在の役所の動きというのは、単式簿記ですね。今現在はそうかもしれませんが、複式簿記による会計が必要といわれてきています。特に外国の場合は多いです。現在ある公営事業会計を止めてという意味ではなく、別個にそういったものを作っていく必要があるのではないかと思います。企業会計仕訳を取り入れて、行政に反映していくことは、非常に大きな労力が必要ですが、ぜひ検討していただきたいなと思います。

 また、デジタル化の効果がどういう所にあるのか見えづらいところがあります。それを、ぜひ見えるようにしていただきたい。

 それと時短の問題ですが、デジタル化の関係もあるかもしれませんが、自分の時間は自分で管理する、自己管理の方向へ向かっています。その意識がまだまだ弱いと思います。給料を払う会社側、あるいは役所側の論理ではなくて、働いている人がどれくらいの時間働いているかを、自分で管理し、有休を取れるようにする。そういうことを考えてもらえばよいと思います。働いている人たちが利用するためのデジタル化の進展を、どう作っていくかが問題ではないでしょうか。

大嶋会長 どうもありがとうございました。働いている時間を自分で管理するというので、少し時間が必要かもしれません。研修等で、自分で時間を見つけて、その時間を如何に有効に使っていくかという方向に変

えていく必要があると思います。デジタル化の有効性がはっきりとしないため、しっかりと検証していくべきとの提案をいただきました。

委員 私は初めて参加させていただいておまして、たくさんの資料を作っておられて、ご苦労していらっしゃるなと思います。

委員 市は歳入の向上を図ることが重要だと思います。
産業構造、農業と観光など、移住定住も含めまして、市の人口を増やすことが命題だと思います。

「近接遠来」という言葉があります。観光事業では最も基本的な言葉ですが、地元の人が元気であれば、他方からたくさんの人が来るといことです。氷見市の方たちが、快活で元気で、氷見市を愛するという気持ちを持つことによって、他方からたくさんの人々が集まってくるということです。行政も移住定住等、様々な事業に、積極的に取り組んでこられたと思いますが、一つ足りないものがあるとしたら、市民の元気、やる気というプラスアルファではないかと思います。

そのために何ができるかということ、市役所の皆さんで、もう一度考え直してほしいと思います。

大嶋会長 ありがとうございます。この件につきましては、今度は総合計画で、住みたいまち、働きたいまち、育てたいまちという方針のもと、これを市民全員で作ろうとしておりますので、そのようになればと思います。

委員 今、学校教育はものすごいスピードで変化をしていると思います。1人1人にタブレット端末を配布し、この先は、学校管理活動が軽減化する方向へ変化していきます。さらに、今回のコロナ禍において、子供たちのいろいろな機会が失われているように感じています。運動会であったり、修学旅行であったりと、たくさんの機会がなくなっています。

子どもたちの教育というのは、本当にわかりやすい未来への先行投資だと感じています。

ぜひ、子供たちに少しでも機会を与え続ける市であってほしいと思います。

また、少子化や、しっかりした財源を確保するという点では、もう少し前向きに、様々な施策を進めていただければと思います。

委員

人口問題では、生まれてくる人が本当に少ないというのが現状でありまして、そんなことを考えてみますと、本当にこのままでやっていけるのかと心配であります。

中々、デジタル化にはついて行かれないと感じておりますが、それなりに頑張っていかなければならないと思っております。

委員

資料を拝見させていただきまして、これまでの行政改革の効果、実績につきまして、心から敬意を表したいと思っております。福祉の立場から申し上げまして、子供あるいは高齢者、障害者と様々な課題があります。その中で、来年開設予定の芸術文化館の建設は、高齢者の生きがい作りの一助となっており、非常に期待をもって、楽しみにしておられます。

話は変わりますが、かつて行財政改革と言いますと、職員数の定員管理、どうやって職員数を減らせばいいか、というのが主な項目でありました。しかし、これだけ職員数が削減されてきて、非常に職員一人一人に負荷がかかっているということで、そういった状況の中で、個人的には、適正な職員の確保というのは絶対必要だと思っております。これから氷見市は、少子高齢化あるいは過疎化、産業、あるいはいろんな所での後継者不足など、様々な課題がある中で、市職員の適正数というのは、ぜひ確保していただきたいと思っております。

それと並行して、皆さんから意見が出ております、デジタル化ということも課題になると思っております。

資料で一つ確認したいのですが、資料の2-2です。その26ページ、コード番号121番にRPAの導入とあります。以前、新聞

で、県内の他市で、R P Aの導入により、非常に業務の効率化が進んだという記事を拝見いたしました。氷見市でも、取り組んでおられるということで、税務課、会計課、市民課等で導入されているということですが、具体的にはどのような事務に導入されておられるのかお聞かせいただければと思います。

大嶋会長 それでは当局の方よろしく願いいたします。

砂山主査 把握している範囲で回答させていただきます。総務課では、給与の処理、会議の書面をデジタル化する際にR P Aを導入しております。税に関しましては、軽自動車税の処理もR P A化をしております。その他に関しましては、詳細を調べさせていただきます、回答させていただきますと思います。

大嶋会長 はい、ありがとうございました。

委員 資料4の4ページですが、3年、5年、10年と、しっかり収支計画を作ることが大切だと思います。そして、税収や実質公債比率等の指標を、毎年しっかり見直していくということが大切だと思います。私共も、高齢化等、先行きが見通せない中で、毎年ローリング・プランを策定しています。ぜひ、市もこういった形でやられたらいいと思っています。

大嶋会長 どうもありがとうございました。

委員 私は民間企業の職員ですので、その観点で気になるところを伺いたいと思います。

今、職員の数というのは、令和3年4月1日の537人、中長期的には530人との計画が出されていおりますが、正規職員の数と非正規職員の数で、将来的にどういった比率で計画をされているのでしょうか。例えば、正規の職員の数を増やして、非正規職員を減らすの

か。また、退職した方を単純に補充しているだけではなく、DX等を取り入れて、職員の配置計画をとられているのかなど、方針等があれば教えてください。

中尾総務課長 今後の職員の内訳ですが、資料3の中長期財政見通しの3ページ、職員数見込のとおりです。

委員 ありがとうございます。なぜ質問したかと申しますと、正規の職員数が少なくなればなるほど、一人当たりの負荷が上がってくるでしょうし、残業の抑制という点でも、管理職にしわ寄せがきます。そうすると、管理監督者の魅力が低下し、なりたくないという若い人が増えてきています。若い人の感覚だと、ワークライフバランスをかなり重視されるので、管理職の魅力を若い人にもっと提示していかないと、将来的な定員抑制、人的な計画というのは難しくなっていくのではないかと思います。質問いたしました。

大嶋会長 その他、ご意見ございませんか。

委員 資料3の2ページ、上の方に推定人口の内訳がありますが、人口の減少幅は今後10年間で、全体で9.1%減となっていますが、1年間では何%でしょうか。

出戸財務課長 お答えいたします。国勢調査年の間の人口の増減で見えております。令和2年、7年、12年と、国勢調査が5年ごとに行われますので、その間の増減という形で試算して定め、その間の各年の人口は、その間の平均増減率により試算しております。

大嶋会長 みなさんの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。これを大いに今後の参考にしていただければと思います。

それでは、本日の案件は全て終了いたしましたので事務局に進行をお渡しいたします。

中尾総務課長 会長、副会長ありがとうございました。
それでは閉会にあたりまして、市長から一言、ご挨拶を申し上げます。

林市長 本日は皆様から貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。いただいたご意見等によりまして、中長期財政見通し、新たな行政改革プランを、さらに内容を充実したものにいたしまして、また説明をさせていただきたいと思えます。

本日の主な内容としては、人口減少や少子高齢化の中で、まずは市民の暮らしを守ることが大事であり、さらに市財政の健全化も確保していかなければならないということです。どのように歳入を増やし、歳出を減らしていくかが大切であります。

私が市長になりましてから、氷見元気プロジェクトとして、住みたいまち、育てたいまち、働きたいまちとなるよう進めております。子供たちがすくすくと育ち、氷見で子育てをして、氷見で働き、住んでいただくということが大事でありまして、そのための必要な投資も行っていかなければならないわけでございます。そんな中でも一番大きいのが氷見市芸術文化館の建設でありまして、今後その財源とした起債の償還も出てくるわけでございます。また、これまで、学校給食センターや西の杜学園、海浜植物園の整備も進めてまいりました。そのため、中長期財政見通しをしっかりと立てて、将来に渡っても健全な財政を維持していくということが重要であると思っております。

今日この見通しの策定において、いろいろ工夫をした点もございます。起債の償還で大きなものとなりますのは、学校給食センターと芸術文化館でありまして、さらに今後の整備予定で大きなものとしては、教育文化センターの改修等もあるわけでございます。このような大規模な事業の起債の償還を重なることがないように、学校給食センターの償還が終わったところに、教育文化センターの償還が始まるように、教育文化センターの改修を少し遅らせるという工夫もしたわけでございます。

今後も財政の健全化にしっかりと取り組みながら、市民にとって必要な、元気がでる施策を進めてまいりたいと思っております。

市の貯金にあたる財政調整基金が29億9千万円あるわけですが、今現在予定している事業を行っていきますと、10年後の令和12年度には17億4千万円ということで、12億円ほど減少いたします。一般的にその残高の目安としておりますのが、市の標準財政規模の1割、氷見市の場合ですと、標準財政規模が120億円で、その1割に相当するのが12億円であります。最低12億円くらいは、大雪の時の除雪でありますとか、大雨災害ですとか、そういった災害や、今回のコロナのような非常に予測しがたいものに充てる財源として必要になります。そういったことにも目配せをしながら、市民の皆様からお預かりしました税金をどのように使えば効率的なのか、毎年度こういった検討等を重ねながら、将来の本市の発展を目指して進めてまいりたいと思います。

また、職員数でございますが、昨今の働き方改革、あるいは時間外勤務が減らないということもございまして、現在の530人程度を維持していく計画としております。何と言いましても、市役所にとって職員というのは財産であります。職員の方で、市民のみなさまが元気になるようなプロジェクトを一丸となって作っていきたいと思っております。

職員数、財政規模などの説明をさせていただきましたが、今後も新型コロナのようなことが発生しますと、いろいろと状況が変わってまいります。また、国の制度も変わってまいります。そういった中で、皆様方には、今後とも引き続き、様々な立場からご意見を賜りたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

中尾総務課長 委員の皆様には長時間にわたりご意見をいただきありがとうございました。第2回につきましては、2月下旬を予定しております。改めてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

本日はこれをもって閉会といたします。ありがとうございました。